

『風と光』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回の発行を予定しています。



夏休み子どものワクワクが止まらない!!

高校生が『ミニ先生』として大活躍!

親子カルチャー教室 @ 富士北稜高校

○日 時 8月1日(土) 8:30~12:30

○場 所 富士北稜高校

富士北稜高校と南都留地域教育推進協議会は、富士北稜高校において、南都留地区(都留市、西桂町、道志村を除く)の小学4~6年生と保護者の合計48名を対象とした「親子カルチャー教室」を開催しました。当日は45名の高校生が「ミニ先生」となり、それぞれの系列で学んでいる知識や技術を生かして、子どもたちと楽しく交流しました。

講座では、「エコたわし作り【福祉健康】」「オリジナルカレンダー作り【総合ビジネス】」「電子おみくじ貯金箱作り【電子情報】」「鋳物によるオリジナル作品作り【機械テクノロジー】」「ウッドパズル作り【建築デザイン】」の5つのプログラムを実施。鋳物の講座では鋳造により発泡スチロールを亜鉛合金に置き換えてネームプレートの製作をするなど、普段経験できない体験がたくさんありました。高校生の丁寧な説明を受けながら、小学生たちはものづくりに夢中になって取り組みました。

参加した小学生からは、「初めてのハンダ付けがとても楽しかった」「木を切ったり穴を開けたりするのがおもしろかった」「また参加したい」といった声が聞かれました。また、保護者の方からも、「高校生が分かりやすく教えてくれた」「親子で楽しい時間を過ごすことができた」「普段できない体



高野泰仁校長から歓迎の言葉



「押さえているから大丈夫だよー」



オリジナルカレンダー作り



「そうそう!上手だね!」



砂を詰めるのが大変💦「頑張って!」



エコたわし作り



完成した貯金箱と記念撮影

験ができてよかった」と好評でした。一方、高校生からも、「教えることの楽しさを感じた」「小学生との交流が楽しかった」「これからも積極的にコミュニケーションを取っていきたい」といった感想が寄せられました。地域の子どもたちと高校生が交流を深める貴重な機会となりました。

高校生ミニ先生と学ぶ！

親子ふれあい体験教室 @ 都留興譲館高校

○日 時 8月11日(火・祝) 8:30～12:30

○場 所 都留興譲館高校

都留興譲館高校と南都留地域教育推進協議会は、都留興譲館高校において「親子ふれあい体験教室」を開催し、都留市、西桂町、道志村の小学4～6年生とその保護者の合計34名が参加しました。

当日は、「燃料電池ミニバギー【機械工】」「デジタル時計【電子工】」「メタルプレートの製作【制御工】」「アクセサリ製作と電子顕微鏡観察【環境工】」「英語でクッキング【英語理数】」の5講座が行われました。20名の高校生が「ミニ先生」となり、各学科の授業で身に付けた知識や技術を生かして、親子にもものづくりの楽しさを伝えました。

デジタル時計製作では、初めてハンダ付けに挑戦する子どもたちをミニ先生が優しくサポート。何ヶ所もハンダ付けして完成した時計が実際に動くのは感動でした。メタルプレートはパソコンでデザインしたものを機械で製作。最初は戸惑っていた子どもも操作に慣れると大人もびっくりするデザインが完成。次々とアイデアがあふれ、「楽しい！もっと作りたい！」という声が聞こえました。英語でクッキングでは、アメリカ人外国語指導助手と英語で会話しながらクッキー作りを楽しみました。参加者は、普段はなかなか触れる機会のない道具や装置を使った体験に興味津々の様子でした。

参加した小学生からは「高校生が詳しく説明してくれてよく分かった」「いろいろな作品が作れて楽しかった」「また参加したい」といった声が聞かれました。また、保護者からは「親子で夏休みの楽しい思い出ができた」「将来について考える良い機会になった」と好評でした。

高校生からも「教えることの楽しさを感じた」「小学生との交流を通して、ものづくりの魅力を再認識できた」「自分自身も学ぶことができた」などの感想が寄せられ、学ぶ喜びやものづくりの楽しさを共有する、実りある一日となりました。



開講式の様子



初めてのハンダ付けにドキドキ



パソコンでメタルプレートのデザイン



アクセサリ作り



一緒にミニバギーを作ります



英語でクッキング



おいしいクッキーがたくさん焼けました (´▽`)

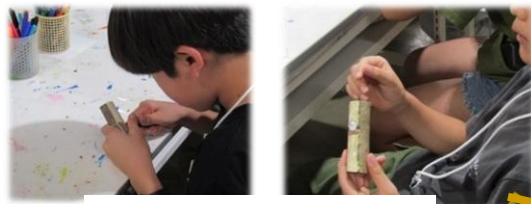
南都留地区ジュニアリーダー体験教室～自然の中で広がる交流の輪～

- 日 程 7月30日（木）
 ○場 所 河口湖フィールドセンター、根場民宿自然村、鳴沢氷穴
 ○主催者 南都留地区社会教育担当者会
 ○参加者 南都留地区の小学5～6年生 28 名

南都留地区社会教育担当者会では、**青少年が交流を深めながら自主性や協調性を育み、将来地域で活躍するリーダーとして成長することを目的に**、毎年さまざまな体験活動を実施しています。今年は、河口湖フィールドセンターでのクラフト体験とガイドウォーク、根場民宿自然村でのほうとう作り、鳴沢氷穴の見学を行いました。

クラフト体験では、思い思いにオリジナルのバードコールを制作し、バードコールを使って野鳥を呼ぶ方法も教えていただきました。また、ガイドウォークでは自然解説員の方の説明を聞きながら富士山麓の自然を散策し、溶岩の特徴を学んだり、実際に溶岩樹型の中に入ったりするなど、貴重な体験を通して自然とのふれあいを楽しみました。ほうとう作りでは、参加者同士で相談しながら麺作りや野菜の準備、かまどの管理などの役割を分担し、協力して調理を進めました。分担を決める際も「麺を作りたい！」「私は火の担当がいい！」など、スムーズ。さすがジュニアリーダーです。完成したほうとうはみんなでおいしくいただき、協力して作る楽しさを味わうことができました。ほうとうでお腹がいっぱいになった後はみんなで鳴沢氷穴へ。氷穴の内部は氷の貯蔵庫の再現や氷柱があり、真夏でもひんやり。自然の不思議を体感しました。

自然の中でのさまざまな体験を通して、子どもたちは楽しみながら学びを深めるとともに、仲間との交流を通じて協力することの大切さを学ぶ機会となりました。



小刀を使って木の皮を削ります



溶岩は水を通します

穴の中から涼しい風がくる～



みんなと協力してほうとうを作りました

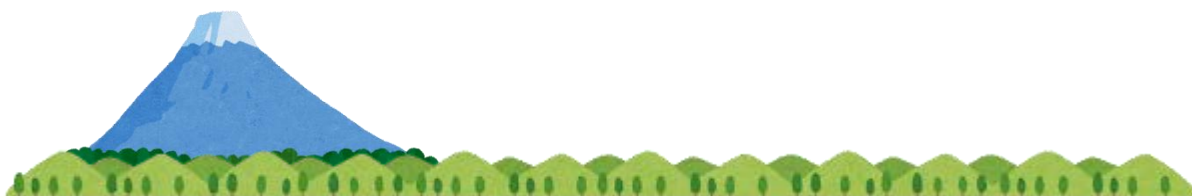


みんなで作ったほうとうは格別！

片付けもしっかりやりました



氷穴の中は真夏でも氷がいっぱい



富士河口湖町 多文化共生交流事業

世界の友達フェスタ2026

○日 時 7月31日（金）10:00～11:30

○場 所 富士河口湖町 中央公民館

富士河口湖町主催による、ふじやま国際学院の留学生と町内の小学生との交流会が開催されました。

当日は、フィリピンやネパール、ロシア、ポーランドなど出身の留学生と、小学生や保護者を合わせた約50人が参加。じゃんけん列車や糸をほどけゲーム、新聞島、風船ラケット、リバーシーなどのレクリエーションを通して交流を深めました。

最初は緊張した様子だった参加者も、ゲームが進むにつれて自然と会話が生まれ、すぐに笑顔が広がりました。勝負のたびに大きな歓声上がるなど、和やかでにぎやかな雰囲気に包まれ、国や言葉の違いを越えて楽しい時間を共有しました。参加した小学生からは、「いろいろな国の人と遊べてよかった」「外国の人と遊ぶ機会はあまりないのでうれしかった」「外国の人や他の学校の友達と交流できて楽しかった」などの声が聞かれました。

今回の交流会は、普段は接点のない人と人が出会い、つながる貴重な機会となりました。同じ富士河口湖町に暮らす町民同士が交流し、その経験が新たなつながりを生み出していく。そんな小さなつながりの積み重ねが、地域に新たな交流や活力をもたらし、暮らしをより豊かにしていくことが期待される交流会となりました。



参加した皆さん



チームごと自己紹介からスタート！



じゃんけん列車、先頭は誰かな？



新聞島 落ちないように気をつけて



リバーシーは白熱しました



最後はみんなで仲良くダンス



戦争の記憶を未来へつなぐ

2つの空襲展

第44回 吉田空襲展～伝えよう戦争 つなげよう私たちの平和～

○日 程 7月26日（日）～29日（水）

○場 所 富士吉田市民会館

○主 催 富士吉田市教職員組合 吉田空襲展実行委員会

1945年7月30日に武蔵航空吉田工場が空襲を受け、12名の尊い命が失われた出来事を振り返りながら、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える空襲展。会場では、戦時中の



資料や南都留地区の小中学校の作品展示をはじめ、映画上映会、読み聞かせ、フィールドワーク、平和について語り合う企画など、さまざまな催しが行われました。今年は1258名が参加し、多くの人が平和への思いを深めました。

式典では、吉田児生連会長の勝俣咲穂さんが、「自分たちの手で平和な社会をつくれるよう、今しかできないことを精一杯やる」と力強く平和への誓いを述べました。高校生平和大使の中島遙さんも、「多くの小中学生が参加する素晴らしい取組」と話し、平和の大切さを伝えていきたいと呼びかけました。

参加者からは、「空襲や戦争について学校や本で勉強することはあったけれど、空襲展に初めて参加して戦争の恐ろしさを改めて感じた」「身近な場所に戦争の跡があることを初めて知った」などの感想が寄せられ、地域に残る戦争の記憶を学び、次の世代へつないでいく大切さを改めて感じる空襲展となりました。



児生連 勝俣 さん 誓いの言葉



平和について語ろう」コーナー



戦争遺跡のフィールドワーク



殉難碑前で慰霊式



高校生平和大使 中島さん

第32回 大月空襲 戦争と平和展

○日 程 8月8日(土)・9日(日)

○場 所 大月市民会館2階ギャラリーほか

○主 催 大月空襲 戦争と平和展実行委員会

終戦間近の1945年8月13日に発生した大月空襲。その記憶と平和への願いを次世代へ伝える空襲展が開催され、来場者が戦争の歴史や平和の尊さについて理解を深めました。会場には、大月空襲に関する年表や戦時中の生活用品、犠牲者の遺影のほか、北都留地区小中学校の平和学習の成果作品などが展示され、来場者は当時の様子に思いを寄せながら見学しました。

会期中は、退職教員による朗読や都留高校生徒による発表も行われました。発表では、大月空襲で聴力を失った18歳の姉との「最後の筆談」を題材にしたアニメが上映され、戦争の中で生きた人々の思いや家族の絆について考える機会となりました。

大月空襲は、終戦のわずか2日前に米軍機の爆撃を受け、61人の尊い命が失われた出来事です。来場者からは「若い人たちがこうした活動を続けてくれることは大切」「戦争の大変さや平和のありがたさを改めて感じた」といった声が聞かれました。戦争の記憶を受け継ぎながら、平和への願いを未来へつなぐ貴重な学びの場となりました。



遺影など、多くの展示物



戦中生活の再現展示品を見る来場者



地区小中学校の平和教育の紹介と
退職女性教職員による絵本の読み聞かせ



戦争体験講話

本を通して広がる交流の輪 チャレンジ！上高アニメーション

○日 時 8月5日(水) 10:00～12:00

○場 所 上野原高校 文化ホール

○参加者 北都留地区の中学生5名
上野原高校図書委員10名

○テキスト「黄色い目の魚」(佐藤多佳子著)

上野原高校と北都留地域教育推進協議会により
「チャレンジ！上高アニメーション」を開催しました。

「アニメーション」とは、ゲーム形式で楽しみながら本について語り合い、読解力やコミュニケーション力を育む読書活動です。参加者は事前に課題テキストを読み、「前かな、後ろかな？」と「彼を弁護します」の2つのプログラムに挑戦しました。

「前かな、後ろかな？」では、作品中の文章やセリフを物語の順番に並べ替えました。参加者たちは「この場面はもっと後だったかな」「このセリフの前にこんな出来事があったよね」と話し合いながら、楽しそうにページを思い返していました。「彼を弁護します」では、登場人物になりきって質問に答えました。「なぜその行動をとったのですか」「そのときどんな気持ちでしたか」といった問いに対し、セリフや情景描写から人物の心情を想像し、登場人物の立場になって考えて気持ちを表現しました。はじめは緊張した様子だった中学生も、高校生とのやり取りを通して次第に笑顔が増え、活発な意見交換が行われました。

参加した中学生からは、「高校生と交流することができた」「本の内容をより深く理解できた」、高校生からは、「中学生と交流できてよかった」「いろいろな人との関わりを大切にしたい」といった感想が聞かれました。

読書の楽しさと人とのつながりを実感し、読書への興味がさらに深まる一日となりました。



開講式



吹奏楽部の演奏もありました



作品中の一節が配られました



「このシーンどこだっけ？」



それぞれが登場人物に扮します



登場人物になりきって答えます

都留興譲館高校 英語理数科

都留文科大学附属小学校跡地活用を提案！

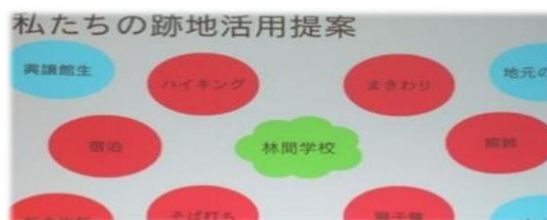
○日 時 7月14日(火) 15:30～16:30

○場 所 都留市役所 大会議室

○発表者 都留興譲館高校 英語理数科「グローバルチーム」6名

○参加者 都留市役所職員、教育関係者等

令和8年度末に、明治7年開校の歴史ある都留文科大学附属小学校が閉校し、谷村第一小学校と統合される予定です。こうした中、都留興譲館高校英語理数科2年生で地域活性化をテーマに探究活動



を行う「グローバルチーム」6名が、校舎跡地の活用案を都留市役所で提案し、市職員や教育関係者など多くの人が参加しました。

生徒たちは、千葉県の新保田小学校や群馬県の旧桐生南高校の活用事例を参考に、林間学校としての再活用を提案。都留市の豊かな自然や伝統文化を生かし、ハイキングや薪割り、文化体験などができる滞在型施設の可能性を示しました。また、地域住民や高校生、大学生が運営や体験活動に関わることで、世代を超えた交流や地域活性化につながる可能性も提案しました。

発表後には、「学校跡地の活用を探究のテーマにした理由は？」「実際に学校を訪れることで新たな発見があるのではないか」など、活発な質疑応答が行われました。

跡地活用にはさまざまな課題もありますが、高校生が地元・都留市の未来を真剣に考え、自ら提案を行ったことは大きな意義があります。地域の皆さんにも、その挑戦を温かく見守っていただきたいと思います。



会場の様子



グローバルチームの6人



多くの人が参加しました



活発な質疑が行われました

北都留地域教育推進連絡協議会 地域教育「明日の風」芸術文化推進事業

高島千香先生による「合唱指導講座」in 銘楽堂

「歌うのって楽しい！」からはじめる合唱づくり

○日 時 7月29日（水）11:00～12:00

○場 所 銘楽堂

○参加者 小中学校教員・音楽担当者等5名、
保護者13名

○講 師 高島千香先生と児童合唱団「大月ジュニアコーラス」の皆さん23名

地域の子供たちの歌声を育む活動として、銘楽堂で歌唱指導講座が開催されました。参加したのは小中学校の教員や音楽担当者らで、講師の高島千香先生と児童合唱団「大月ジュニアコーラス」の皆さんによる実践的な歌唱指導を見学しました。

講座では、呼吸や体操を取り入れて心と体をリラックスさせ、体を動かしながら歌うことで表現力を高める指導法を学びました。続いて、動物の鳴き声やキャラクターの声をまねする活動を通して、多様な声の出し方を体験。さらに、大月ジュニアコーラスの皆さんとともに輪唱やハンドサインを用いた音楽遊びに取り組み、ハーモニーの楽しさや仲間と歌う喜びを味わいました。歌唱指導の後には、大月ジュニアコーラスによるミニコンサートも開かれ、会場は美しい歌声に包まれました。



講師の高島千香先生



大月ジュニアコーラスの皆さん



見学者も一緒に楽しく輪唱♪



ハンドサインを使う方法も…



大月ジュニアコーラスによるミニコンサートで癒やされました



参加した教員からは「発声方法など、早速音楽の授業でやってみたいと思います」との声が聞かれたほか、「子供達と先生が笑顔で楽しそうに歌っているのが印象的でした」「楽しいレッスンで指導内容もとても勉強になりました」といった感想が寄せられました。児童生徒からも「会場にいる全員で楽しくできましたと思います」との感想がありました。音楽を通して参加者同士の交流が深まり、これからの合唱指導につながる有意義な機会となりました。

障害児（者）地域療育等支援事業 地域療育連携事業 富士河口湖町社会福祉協議会 共催

ディーワット ボランティア講座 DWAT ってなあに？

○日 時 8月19日（水）13:30～15:00

○場 所 富士河口湖町勝山地区公民館

○参加者 合計31名（中学生5名、高校生6名、一般20名）

○講 師 災害ボランティア・福祉支援センター 小笠原彩人 様

「DWAT（災害派遣福祉チーム）」は、地震や豪雨などの大規模災害時に、高齢者や障がいのある方など、特に支援が必要な要配慮者への福祉支援を行う専門チームです。今回の講座では、DWATの役割や活動内容を学び、災害時に私たちができることについて考えました。

講演では、災害関連死を防ぎ、その後の生活再建につなげるためには、避難生活を支える福祉支援が欠かせないことが説明されました。DWATは4～5人のチームで活動し、避難者の受付や避難所の環境整備、生活改善の支援などを行います。保健師やケアマネジャー、DMAT（災害派遣医療チーム）などの専門職や災害ボランティアと連携しながら支援にあたることを学びました。グループワークでは、平時と災害時の暮らしを見つめ直し、大切にしていることや困りごとを共有しながら、地域でできる支え合いについて話し合いました。

参加者からは、「もっとDWATについて知る必要がある」「若い世代も日頃から防災について話し合うことが大切」「災害時に支え合うためには、普段から地域のつながりを築いておくことが重要」といった感想が聞かれました。近年も各地で地震や豪雨災害が発生しており、災害はいつ、どこで起こるか分かりません。講座を通して、日頃から地域のつながりを深めておくことの大切さを改めて学ぶ機会となりました。



講師 小笠原 彩人 さん



会場の様子



さまざまな世代の人が混じってのグループワーク

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。】

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望、地域連携活動の情報がありましたら、教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 教育支援スタッフ 0554-45-7841

